

# 高校進学率94.5%，全国平均を上回る ……………

## 1. 小学校

### (1) 学校数

学校総数は587校(公立586校, 私立1校)で, 本校571校, 分校16校, 前年度より1校減少である。

本年の新設・統廃合の状況をみると, 新設は, 水戸市の笠原, 常陸太田の河内, 東海村の舟石川, 総和町の水海, 藤代町の宮和田小学校の5校である。廃止の学校は常陸太田市の2校, 大子町の1校, 総和町の3校で6校が廃止になりそれぞれ近くの学校へ収容された。

### (2) 学級数

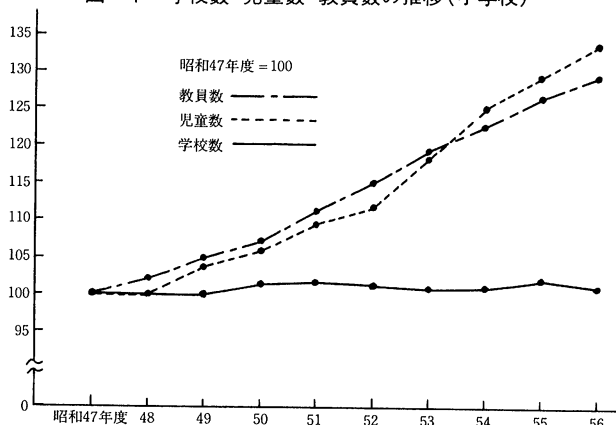
学級数は, 8,337学級(うち, 75条の学級526学級)で前年度より166学級の増加である。

1学級当たりの児童数は33.0人である。(全国平均33.7人)

### (3) 児童数

児童数は, 274,787人で前年度より7,513人増加である。

図一 1 学校数・児童数・教員数の推移(小学校)



49年以降増加が続いている。しかし, 第1学年の児童数は, 46,690人で前年より360人減った。

### (4) 教員数

教員数は, 10,960人で前年度より225人増加である。

男女別内訳をみると男子教員5,102人(47%)で女子教員は5,858人(53%)である。

本務教員1人当たりの児童数は25.0人となっている。(全

表一 1 小学校の推移

年 度	学 校 数			学 級 数	75条の学級 (再掲)	児 童 数	教 員 数	職 員 数
	総 数	本 校	分 校					
昭和52年度	588	558	30	7,446	511	232,663	9,742	1,790
53	587	562	25	7,713	527	243,823	10,080	1,850
54	586	565	21	7,957	514	258,026	10,423	1,853
55	588	568	20	8,171	525	267,274	10,736	1,865
56	587	571	16	8,337	526	274,787	10,962	1,851
前年との比較 (△印減)	△ 1	3	△ 4	166	1	7,513	226	△ 14

(注) 75条の学級=特殊学級。教員数は兼務教員を含む。

表一 2 学年別児童数(小学校)

年 度	総 数			1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年
		男	女						
昭和52年度	232,663	118,816	113,847	42,628	40,710	40,366	40,301	33,572	35,086
53	243,823	124,741	119,082	44,155	43,091	41,247	40,813	40,628	33,889
54	258,026	131,892	126,134	46,276	44,647	43,535	41,513	41,201	40,854
55	267,274	136,608	130,666	47,050	47,004	45,353	44,176	42,040	41,651
56	274,787	140,439	134,348	46,690	47,660	47,599	45,859	44,590	42,389
前年との比較 (△印減)	7,513	3,831	3,682	△ 360	656	2,246	1,683	2,550	738

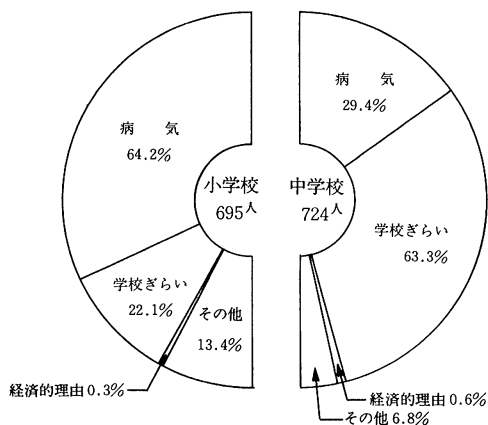
…………… 昭和56年度「茨城の学校統計」(学校基本調査結果報告書)から

国平均25.0人)

(5) 理由別長期欠席者数

昭和56年3月31日現在、在籍している児童について、昭和55年度間に連続又は断続して50日以上欠席した児童は695人で前年と比べて7人増加である。理由別内訳をみると、図一2のとおり病気が446人(64.2%)、学校ざらいは154人(22.2%)となっている。

図一2 長期欠席児童・生徒の理由別比較 (小・中学校)



## 2. 中学校

(1) 学校数

学校総数は208校(公立203校, 私立5校)で、本校207校, 分校1校, 前年度より2校の増加である。

本年の新設校は、千代田村の下稻吉、総和町の総和南中学校の2校である。

(2) 学級数

学級数は3,125学級(うち、75条の学級193学級)で前年より140学級の増加である。

1学級当たりの生徒数は37.8人である。(全国平均37.6人)

(3) 生徒数

生徒数は、118,141人で前年度より6,618人の増加である。

公・私立別の内訳をみると、公立は116,513人(男59,433人, 女57,080人), 私立は1,628人(男1,118人, 女510人)となっている。

なお、第3学年の生徒数は、前年度より1,146人の減少となっている。

(4) 教員数

教員数(本務者)は5,465人で前年度より226人の増加である。男女別内訳をみると、男子教員3,766人, 女子教員1,699人で男女の比率は男子68.9%に対し、女子31.1%となっている。なお、女子教員の占める割合は、前年度より0.9%上昇した。

本務教員1人当たりの生徒数は20.6人である。(全国平均20.5人)

(5) 理由別長期欠席者

昭和56年3月31日現在、在籍している生徒について、昭和55年度間に連続又は断続して50日以上欠席した生徒は724人で前年と比べて42人増加である。

理由別にみると、前年同様学校ざらいの生徒が63.3%と圧倒的に多く、次に病気となっている。(図一2)

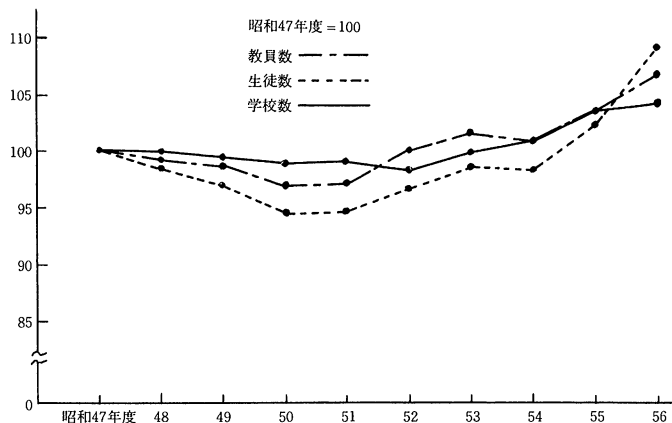
## 3. 高等学校

(1) 学校数

学校総数は112校(公立95校, 私立17校)で、前年度より1校の増加である。

本年の新設校は、日立市の日立北・総和町の総和高等学

図一3 学校数・生徒数・教員数の推移(中学校)



# 調査から

表一三 中学校の推移

年 度	学 校 数			学 級 数	75条の学級 (再掲)	生 徒 数	教 員 数	職 員 数
	総 数	本 校	分 校					
昭和52年度	196	195	1	2,899	236	106,697	5,055	693
53	199	198	1	2,924	235	107,763	5,141	694
54	201	200	1	2,882	209	106,698	5,126	692
55	206	205	1	2,985	200	111,523	5,308	725
56	208	207	1	3,125	193	118,141	5,545	730
前年との比較 (△印減)	2	2	—	140	△ 7	6,618	237	5

(注) 兼務教員を含む。

表一四 学年別生徒数(中学校)

年 度	総 数	学 校 数		1 学 年	2 学 年	3 学 年	1 学級当たりの 生 徒 数
		男	女				
昭和52年度	106,697	54,475	52,222	36,626	35,227	34,844	36.8
53	107,763	54,930	52,833	35,369	36,906	35,488	36.9
54	106,698	54,534	52,164	34,174	35,508	37,016	37.0
55	111,523	56,579	54,544	41,372	34,403	35,748	37.4
56	118,141	60,551	57,590	41,980	41,559	34,602	37.8
前年との比較 (△印減)	6,618	3,972	3,046	608	7,156	△ 1,146	—

表一五 高等学校の推移

年 度	総数	学 校 数									生徒数	教員数	職員数
		本 校			分 校		男 女 別 学 校			生徒 なし			
		全日 制	併置	定時 制	全日 制	定時 制	男女 共学	男子 のみ	女子 のみ				
昭和52年度	102	82	18	1	1	—	76	6	19	1	93,742	5,320	1,248
53	107	87	18	1	1	—	81	6	19	1	95,494	5,477	1,279
54	109	89	18	1	1	—	83	6	19	1	97,315	5,581	1,303
55	111	91	18	1	1	—	85	6	19	1	101,160	5,780	1,328
56	112	93	18	1	—	—	86	6	19	1	102,446	5,904	1,349
前年との比較 (△印減)	1	2	—	—	△ 1	—	1	—	—	—	1,286	124	21

表一六 学科別・学年別・生徒数(高等学校)

学 科 名	生 徒 数							
	計	男	女	1 学 年	2 学 年	3 学 年	4 学 年	
普通科	74,304	36,253	38,051	25,711	25,134	23,202	257	
農業科	6,951	5,073	1,878	2,255	2,437	2,253	6	
工業科	6,814	6,737	77	2,347	2,276	2,160	31	
商業科	8,480	3,103	5,377	2,817	2,922	2,726	15	
水産科	453	453	—	163	159	131	—	
家庭科	4,573	—	4,573	1,527	1,530	1,516	—	
厚生科	407	—	407	132	134	141	—	
その他	453	326	127	154	151	148	—	
計	102,435	51,945	50,490	35,106	34,743	32,277	309	

(注) 専攻科は含まない。

校の2校である。なお、土浦日本大学岩瀬校舎が土浦日本大学高等学校へ統合された。

(2) 生徒数

生徒数は102,446人(全日制課程101,149人, 定時制課程1,297人)で前年度より1,286人の増加である。又、生徒数のうち本科の生徒数は102,435人、専攻科の生徒数は11人となっている。

生徒数のうち全日制課程の生徒の占める割合は98.7%で、前年度より0.1%上昇している。定時制課程の生徒数は年々減少してきており、本年度も前年度より115人の減少である。

本科の生徒を学科別にみると、普通科(男36,253人, 女38,051人)で最も多く、次いで商業科(男3,103人, 女5,377人)、農業科(男5,073人, 女1,878人)、工業科(男6,737人, 女77人)の順となっている。

(3) 教員数

教員数(本務者)は5,472人(男4,399人, 女1,073人)で前年度より109人の増加である。

教員数(本務者)のうち女子教員の占める割合は、19.6%である。

本務教員1人当たりの生徒数は18.7人である(全国平均18.9人)

(4) 通信教育

水戸南高等学校1校のみである。在学者数2,221人(男862人, 女1,359人)で前年度より136人の増加である。

昭和55年度間に入学した者380人(男142人, 女238人)である。又、卒業者は151人、退学者は30人となっている。

教員数は、専任28人、兼任4人で前年度と同じである。

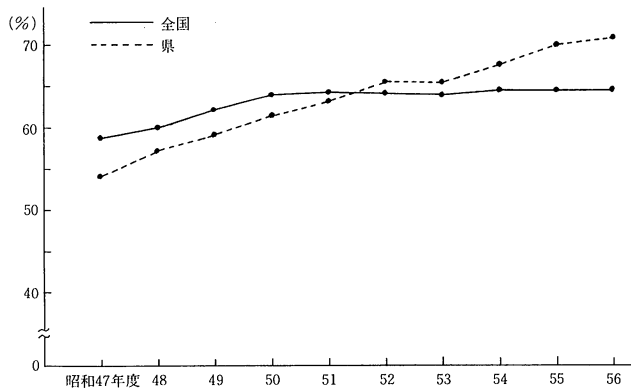
## 4. 幼稚園

(1) 園数

幼稚園数は428園(公立243園, 私立185園)で前年度より7園の増加である。

本年は公立4園, 私立3園新設された。新設の状況を見ると、公立では水戸市の笠原、常陸太田市の誉田、大野村の北、石下町の御城、私立は三和町の諸川めぐみ、利根町の利根大和、竹ぞの幼稚園が設置された。しかし、3町村

図一4 就園率の推移



(山方町, 美和村, 里美村)は未設置である。

(2) 学級数

学級数は1,699学級で、前年度より12学級の増加である。

1学級当たりの幼児数は31.1人である。

(3) 在園者数

在園者数は52,805人で前年度より822人の減少である。

設置者別の在園者数は、公立21,784人(在園者数の41.3%)、私立31,021人(同58.7%)となっている。

園児数を年齢別にみると、表一8のとおり、公・私立とも5歳児が最も多く、公立16,530人、私立14,669人となっている。

就園率( $\frac{\text{本年3月幼稚園修了者数}}{\text{本年度小学校第1学年児童数}} \times 100$ )は70.9%で、前年度より2.7%の上昇となっている。

(4) 教員数

教員数(本務者)は2,349人で前年度より8人増加である。兼務教員は304人となっている。

教員数(本務者)のうち女子教員の占める割合は95.5%である。

本務教員1人当たりの在園者数は、前年度より0.4人減少して22.5人である。

## 5. 卒業後の状況

(1) 中学校

昭和56年3月に卒業した生徒数は35,769人(男子18,099人, 女子17,670人)で前年度より1,285人の減少である。

# ■調査から

卒業者の進路別内訳は、進学者(就職進学者を含む) 33,790人(卒業者総数の94.5%), 教育訓練機関等入学者(就職して入学した者を含む) 776人(同2.2%), 就職者981人(同2.7%), 無業者202人(同0.6%), 死亡・不詳20人(同0.0%)となっている。

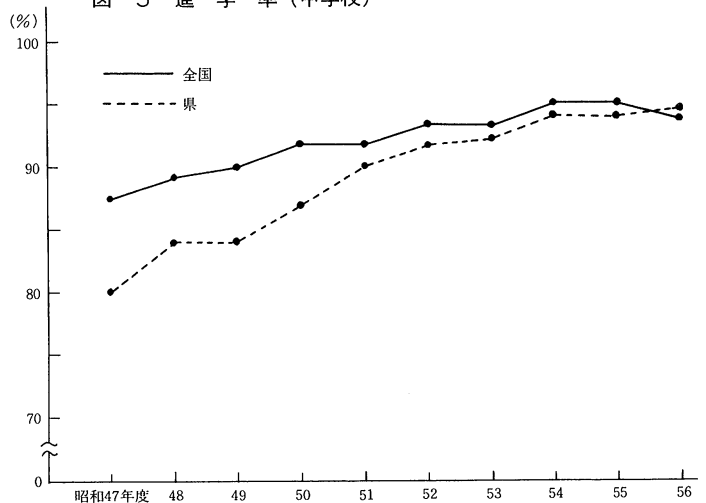
進学率は94.5%で前年より1.0%上昇している。男女別の進学率をみると、男子が93.2%, 女子が95.8%で女子が男子を上回っている。

市町村別にみると、瓜連町が99.0%で最も高く、以下、水戸市、土浦市等53市町村が全国平均を上回っている。(全国平均94.3%)

就職状況は進学者の増加につれて減少傾向にある。就職者981人、進学者のうち就職している者(就職進学者)及び教育訓練機関等入学者のうち就職している320人、計1,301人で前年より200人の減少である。

就職者数を産業別にみると、最も多いのが第2次産業の854人(就職者総数の65.6%), 次いで第3次産業の406人

図一5 進学率(中学校)



(同31.2%), 第1次産業の21人(同1.6%), その他20人(同1.5%)となっている。

県内外別でみると、県内1,014人(就職者総数の77.9%), 県外287人(同22.1%)で県内就職は前年度より38人の減少である。

表一7 幼稚園の推移

年 度	園 数			学 級 数	在 園 者 数			教 員 数 (本務者)	本務教員 1人当たりの 園児数
	総 数	公 立	私 立		総 数	公 立	私 立		
昭和52年度	354	203	151	1,386	46,137	21,238	24,899	2,158	24.5
53	377	221	156	1,494	48,976	22,809	26,167	2,312	24.0
54	396	232	164	1,595	51,044	23,021	28,023	2,246	23.3
55	421	239	182	1,687	53,627	23,032	30,595	2,341	22.9
56	428	243	185	1,699	52,805	21,784	31,021	2,349	22.5
前年との比較 (△印減)	7	4	3	12	△822	△1,248	426	8	—

表一8 年齢別園児数

年 度	総 数	公 立			私 立				
		計	3 歳	4 歳	5 歳	計	3 歳	4 歳	5 歳
昭和52年度	46,137	21,238	37	4,286	16,915	24,899	1,552	11,316	12,031
53	48,976	22,809	55	4,594	18,160	26,167	1,733	11,481	12,953
54	51,044	23,021	59	4,724	18,238	28,023	2,118	12,559	13,346
55	53,627	23,032	74	4,909	18,049	30,595	2,642	13,264	14,689
56	52,805	21,784	91	5,163	16,530	31,021	2,918	13,434	14,669
前年との比較 (△印減)	△822	△1,248	17	254	△1,519	426	276	170	△20

(2) 高等学校

昭和56年3月に卒業した生徒数は31,507人(男子15,708人, 女子15,799人)で前年度より1,516人の増加である。

卒業者の進路別内訳は, 進学者(就職進学者を含む)7,034人(卒業者総数の22.3%), 教育訓練機関等入学者(就職して入学したものを含む)6,893人(同21.9%), 就職者16,152人(同51.3%), 無業者1,415人(同4.5%), 死亡・不詳13人(同0.0%)となっている。

進学者(大学学部, 短期大学本科, 大学及び短期大学の別科, 高等学校の専攻科に進学した者, いわゆる現役進学者)は男子3,137人, 女子3,897人で前年度より68人の増加である。

進学率は22.3%で前年度より0.9%下回った。

進学先別にみると, 大学学部4,132人(男子2,943人, 女子1,189人)58.7%, 短期大学本科2,943人(男子183人, 女子2,691人)40.9%, 大学・短期大学の別科21人, 高等学校の専攻科6人, 盲・ろう・養護学校1人となっている。

就職者数(就職進学者及び就職して教育訓練機関等へ入学した者を含む)は16,325人(男子7,960人, 女子8,365人)で前年より592人の増加である。就職率は, 51.8%である。

産業別にみると, 製造業が6,389人(就職者総数の39.1%)で最も多く, 次いで卸売業・小売業の3,726人(同22.8%), サービス業2,464人(同15.1%)の順となっている。

職業別にみると, 最も多いのが技能工・生産工程作業者5,822人(35.7%), 次いで事務従事者5,100人(31.2%), 販

表一11 職業別就職者数(高等学校)

区 分	計	男	女
計	16,325	7,960	8,365
専門的・技術的職業従事者	298	83	215
事務従事者	5,100	914	4,186
販売従事者	2,537	1,048	1,489
農林業作業	306	271	35
漁業作業	7	7	—
採鉱・採石作業	13	13	—
運輸通信作業	418	393	25
技能工・生産工程作業	5,822	4,217	1,605
保安職業作業	495	465	30
サービス職業従事者	1,256	493	763
その他	73	56	17

表一9 卒業者の進路状況(中学校)

年 度	総 数			進 学 者		教育訓練機関等入学者		就 職 者		無 業 者		死亡・不詳	
	総数	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
昭和52年度	33,931	17,266	16,665	15,779	15,525	900	261	674	731	185	147	9	1
53	34,852	17,718	17,134	15,498	16,113	847	228	696	614	176	174	7	5
54	35,441	18,112	17,329	16,594	16,484	709	188	625	526	181	129	3	2
55	37,054	18,963	18,091	17,448	17,208	741	233	640	535	127	111	7	4
56	35,769	18,099	17,670	16,864	16,926	593	183	534	447	94	108	14	6
前年との比較(△印減)	△1,285	△864	△421	△584	△282	△148	△50	△106	△88	△33	△3	7	2

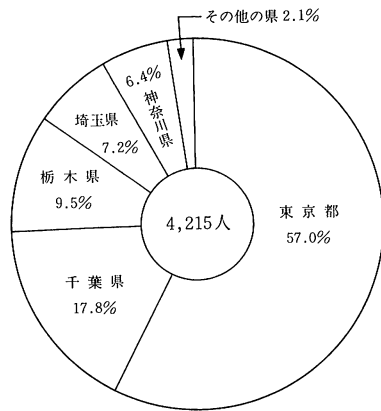
表一10 卒業者の進路状況(高等学校)

年 度	総 数			進 学 者		教育訓練機関等入学者		就 職 者		無 業 者		死亡・不詳	
	総数	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
昭和52年度	30,326	15,028	15,298	3,355	4,132	1,790	2,109	7,423	7,817	2,451	1,237	9	3
53	30,166	15,027	15,139	3,269	3,716	1,905	2,329	7,441	7,779	2,403	1,313	9	2
54	30,263	15,117	15,146	3,198	3,827	2,700	2,403	7,640	7,803	1,573	1,110	6	3
55	29,991	14,949	15,042	3,138	3,828	3,420	2,662	7,713	7,856	669	694	9	2
56	31,507	15,708	15,799	3,137	3,897	3,899	2,994	7,906	8,246	761	654	5	8
前年との比較(△印減)	1,516	759	757	△1	69	479	332	193	390	92	△40	△4	6

売従事者2,537人(15.5%)、サービス職業従事者1,256人(7.7%)等の順となっている。

県外就職者は、4,215人で前年と比べて92人増加している。都道府県別にみると東京都が2,403人、千葉県751人、

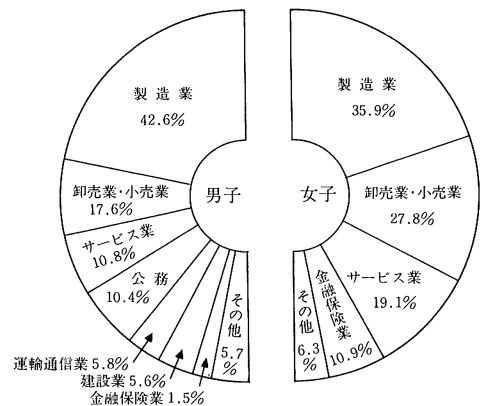
図一六 県外就職者の都道府県別割合(高等学校)



栃木県400人、埼玉県303人、神奈川県269人の順となり、この5都県で97.9%を占めている。

(統計課・人口労働統計グループ)

図一七 男女別の主な産業別就職者数の比率(高等学校)



〔\ P15からつづき〕

か手はないと感じている。今回の大会は、この“高気圧”を誘導するための進入路を敷設するという目標をかかげ開催したが、待たれる結果も多いなか、まずは所期の目的を達成し得たと自画自讃している。しかし、“あらし”の進入を許さない安定した気圧配置づくりは焦眉の急であり、今後、間髪を容れずにこれが対策に当らなければならない。良好な統計環境確保への道のりは、限りなく遠い。

(美野里町役場企画課・沼田和美)

【市町村の行事】

(12月) 茨城町統計大会(4日、ひぬま荘)／行方郡統計事務協議会新任統計調査員業務研修会(7日、麻生町役場)／筑波郡統計協会事務研究会(11~12日、栃木県藤原町)／茨城県都市統計事務協議会定例会(21日、常陸太田市)／東茨城郡統計事務研究会(22日、小川町役場)

(1月) 筑波郡統計協会互審会(25日、大穂町役場)／稲

敷郡統計事務研究会視察研修会(25~26日、千葉県富浦町)／那珂郡統計事務研究会(26日、大宮町役場)／麻生町統計調査員協議会昭和57年度総会(26日、白帆荘)／新治郡統計事務研究会(27日、新治村中央公民館)

(2月) 第28回土浦市統計調査員大会(8~9日、栃木県那須町)／水戸市統計協会研修視察(18~19日、静岡県熱海市)／真壁郡統計事務研究会優良町視察(22~23日、千葉県白井町)／第1回美野里町統計大会(24日、美野里町公民館)

(3月) 猿島郡統計事務研究会視察研修(1日、総理府統計局)／潮来町統計調査員協議会研修(2日、潮来町中央公民館)／第24回下館市統計大会(3日、下館市公民館)／都市統計事務協議会事務研修会(5日、常陸太田市役所)／那珂町統計調査員会事務研修会(5日、那珂町老人いこいの家)／竜ヶ崎市女性統計調査員のための研修会(30日、竜ヶ崎市役所)